

令和8年度 北海道旭川聾学校グランドデザイン

学校教育目標

一人ひとりが個性を生かし、心身ともに健康で心豊かな子ども

目指す教師像

- 教育的愛情をもち、幼児児童生徒の可能性を信じ追求する教師
- 聾教育の専門性や指導力向上のため、常に学び続ける教師
- ウェルビーイングの向上に積極的に取り組む教師
- 幼児児童生徒の気持ちを大切に、必要な配慮に対して寄り添える教師
- 互いに支え合い、同僚性が高く組織的・計画的に業務を推進する教師



【協働する教職員】

目指す子ども像（校訓）

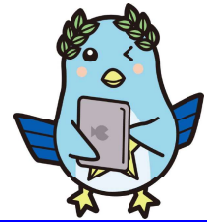
- よく考えて 自ら学ぶ子ども（知育）
- 思いやりをもち 助け合う子ども（徳育・協働）
- 元気で たくましい子ども（体育）

目指す学校像

- (1) 子どもが進んで学びたい学校
- (2) 保護者が安心して通わせたい学校
- (3) 教職員が働きたい学校
- (4) 地域の方々が寄りたい学校

学校経営方針

【教育の方針】
「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせ、学ぶ喜びを実感できる授業改善に努めるとともに、自分の力で考え、判断し、表現できる子どもを育成する。
【経営の方針】
学校経営方針への意識を高くもち、「チーム旭川聾学校」として、全教職員が組織的に業務を推進することで学校教育目標を達成する。



文房具としてのタブレット

令和8年度の重点（※学校設定項目）

- ・ 「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせる教育活動を効果的に推進する。
- ・ 旭川聾学校サポーターズを活用した地域学校協働活動で効果的な教育活動を推進する。
- ・ 教職員自らの指導技術と専門性の向上を図る研修を充実する。
- ・ ICTを活用した授業実践を推進し、教育的効果を高める。
- ・ 安全・安心な教育環境を整え、教育活動を推進する。
- ・ 教職員自らが効率的かつ効果的な業務の推進に努め、健康で質の高い働き方を実現する。

様々な教育活動をととして

- 育成を目指す資質・能力を意識した日常の授業
- 旭川聾学校サポーターズを活用した教育活動
- 他校と協働して実践し、他校から学ぶ交流及び共同学習
- 「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れる教育活動
- 「毎日参観日」、「ペンタゴン交流」、「北海道聾学校との交流」等、外部を意識し、教育活動の根拠が明確な日常の実践 等

育成を目指す資質・能力

自己理解力

コミュニケーション能力

情報活用能力

※セルフアドボカシーの力へ。

※社会性の育成へ。

※確かな学力の育成へ。

何ができるようにするか
(学校教育の基本)

- ・ 学習を支える言語力
- ・ 豊かな経験に基づいた知識
- ・ 知識の活用能力
- ・ 抽象的思考力の基礎
- ・ 判断力や自己決定力

何を学ぶか
(教育課程の編成)

- ・ 言語力、コミュニケーション力やセルフアドボカシーにつながる自己理解力
- ・ 各発達段階における標準的な教育課程（幼児教育、小中学部の教科指導）
- ・ 幼児児童生徒それぞれの課題に応じた自立活動

幼児児童生徒をどのように支援するか
(配慮を必要とする児童生徒への指導)

- ・ 個別的教育支援計画の活用
- ・ 個別の指導計画（自立活動）の活用
- ・ 地域の多様な人材や社会資源を活用した体験学習やキャリア教育

どのように学ぶか
(教育課程の実施)

- ・ 子どもが主体的に向き合う学び
- ・ ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び
- ・ 地域と連携することで、人に支えられる安心感をもちながらの学び

何が身に付いたか
(学習評価を通じた学習指導の改善)

- ・ 個別的教育支援計画の目標
- ・ 個別の指導計画（自立活動）の目標
- ・ 成功体験や達成体験に基づいた自己有用感や自信
- ・ 全ての基礎になる生きて働く知識・技能
- ・ 主体的に取り組もうとする態度

学校研究課題 ※3年継続研究
「自ら考え、豊かに表現する力を育てるための指導法の工夫」 ～コミュニケーション力の向上を目指した実践～

令和8年度の旭聾の合言葉
幼児児童生徒理解と情報共有を合い言葉に「ICTを活用」した授業改善に取り組み、幼児児童生徒の「学力向上」を図る。
※令和7年度から継続。

論理的思考
「なぜ、どうして」
日本語力、客観的に観る力 etc.

学校教育目標の達成